

山越徳先生退職記念号によせて

経済学部長 ^{チョン}全 ^ゼ載 ^{ウク}旭

山越徳先生は2016年3月定年を迎えられ、本学経済学部経済学科の教授職をご退任されました。

山越徳先生は、1968年3月に慶應義塾大学経済学部を卒業後、慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程に進学され、1970年3月に経済学修士を取得された後、1973年3月に同大学院の経済学研究科博士課程を満期退学されました。1973年10月に雇用促進事業団職業研究所（現労働政策研究・研修機構）に研究員として着任された後、1988年4月に本学経済学部助教授に着任し、1990年4月には同教授に昇任されました。また、1990年4月より大学院経済学研究科もご担当されて、同研究科におきましては、2000年4月から2002年3月までは大学院委員として、2006年4月から2008年3月までは主事として大学院改革に積極的に取り組まれました。さらに、この間、図書館委員、国際交流委員、キャリアセンター委員など全学の委員も多数歴任され、本学の発展に多大な貢献をされました。

山越先生の研究分野は労働経済および産業経済です。特に、技術変化や産業構造変化の問題を、マクロレベルのみならず産業・企業のミクロレベルにわたり、産業連関分析、生産関数分析、産業職業マトリックス分析など多様な数量分析手法を用いて解明されてきました。そうした研究成果は、『就職構造のコーホート分析—性別、産業別、職業別にみて—』

（1983年）、「産業構造の将来と雇用」（2000年）、「外国人労働者の使用者」（2001年）、『専門的・技術的労働者の国際労働力移動～看護・介護分野とIT産業における主要課題～』（2006年）などの業績として発表されております。

本学における教育活動では、経済学部経済学科の各演習科目と専門科目である「産業構造論」に加え、全学共通カリキュラム科目「全学総合講座（キャンパスライフと仕事）」など多彩な科目を担当されてきました。さらに、大学院経済学研究科では、博士前期課程における経済政策研究部門および経済政策演習部門の「労働経済論Ⅰ」という高度な専門性が要求される科目を担当されました。

以上のように本学部はもとより本学への多大な貢献をされてきた山越徳先生が退職されることは経済学部として大変残念なことと感じています。

なお、獨協大学は山越徳先生の長年のご功績を讃えて、2016年4月に名誉教授の称号を贈呈いたしました。私ども経済学部教員一同は、先生に感謝の気持ちを込め、『獨協経済』98号を山越徳先生退職記念号とさせていただきます。先生には引き続き経済学部に対してご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。どうぞいつまでもご健康でご活躍されんことをお祈りいたします。